

茨城大学五浦美術文化研究所所員企画展二〇二二

つなぐ人つなぐ文―手紙に「見る」そのひとらしさ―報告

齋 木 久 美

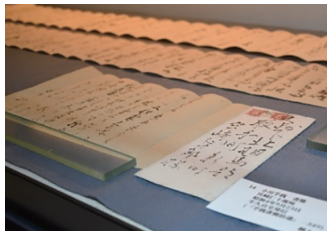
本研究所の所員が各専門分野を生かした展示を企画する「所員企画展」として、小川芋銭や高村光太郎の手紙や書を展示する「つなぐ人つなぐ文―手紙に見る―そのひとらしさ―」を開催しました。

「書は人なり」と言われるように、先人の事蹟をしのび、その書を鑑賞することとは広く行われてきました。郷土茨城でも多くの先人が活躍し、その書蹟は高く評価され現代に伝わっています。

そこで、横山大観、木村武山など五浦ゆかりの画家や、大観が認められた小川芋銭、また茨城にも関わりがあった高村光太郎などの手紙に表れる「そのひとらしさ」に触れ、鑑賞していただくこと企画しました。芋銭が、長く交流した宮崎仁十郎宛に送った手紙は五〇〇通以上にも上ります。仁十郎の息子稔は、智恵子の姪春子と結婚し、長子に光太郎と命名しています。手紙から、当時の交流関係をうかがうことができ、これも手紙に触れる魅力です。

とはいうものの、筆が走り、草書や変体仮名が使われている芋銭らの手紙は、読むことは難しいと思います。しかし、「線」や「書きぶり」を見ることはできます。太さ、細さ、強さ…様々な表現に感じられる「そのひとらしさ」をくみとって、「読まない」鑑賞をしてもよいのではないかと考えました。

展示に合わせて開催した記念講演会では、手紙を通してうかがうことのできる芋銭らの交流の様子も紹介されました。



会期 令和四年十一月八日(火)～二十一日(月)

会場 茨城大学図書館本館一階展示室

記念講演会 令和四年十一月十二日(土)

会場 茨城大学図書館本館ライブラリーホール

小川芋銭の芸術 小泉晋弥氏(茨城大学名誉教授・美術評論家)

光太郎と宮崎稔 安 裕明氏(茨城県立多賀高等学校講師)

感染防止対策のため、外部の方の閲覧は、事前申し込み制となりましたが、五浦ゆかりの人物や芋銭に関心を持つ内外の方が足を運んでくださり、人と人をつなぐ手紙の魅力が再発見してもらえる展示となりました。

ご協力いただいた方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

※本企画は、茨城大学ダイバーシティ推進室 令和四年度女性エンパワーメント支援 制度の事業として実施しました。

(所員・本学教育学部教授 齋木久美)